

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第41週 (10/10-10/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		41週	40週	39週	38週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	16	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	28	26	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/10-10/16	10/3-10/9	9/26-10/2	9/19-9/25	10/3-10/9
			41週	40週	39週	38週	40週
小児科	RSウイルス感染症	↓	10 0.56	27 1.69	16 0.89	19 1.06	271 2.04
	咽頭結膜熱		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 0.08
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	22 1.22	12 0.75	25 1.39	20 1.11	304 2.29
	感染性胃腸炎		75 4.17	76 4.75	83 4.61	46 2.56	384 2.89
	水痘		0 0.00	3 0.19	4 0.22	5 0.28	28 0.21
	手足口病		27 1.50	39 2.44	51 2.83	27 1.50	405 3.05
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.13	2 0.11	1 0.06	14 0.11
	突発性発しん		4 0.22	7 0.44	13 0.72	6 0.33	54 0.41
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.02
	ヘルパンギーナ		7 0.39	20 1.25	27 1.50	23 1.28	126 0.95
	流行性耳下腺炎		2 0.11	5 0.31	6 0.33	4 0.22	97 0.73
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	2 0.08	4 0.14	2 0.07	46 0.22
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	3 0.75	3 0.60	2 0.40	26 0.81
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	2 2.00	1 1.00	2 2.00	18 2.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	女性	30歳代	細菌の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	60歳代	IGRA検査等				
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出等
結核	女性	80歳代	病原体等の検出				
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	-	-	-	-

・第41週は、結核4件(191)、腸管出血性大腸菌感染症1件(18)、急性脳炎1件(24)、劇症型レンサ球菌感染症1件(6)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

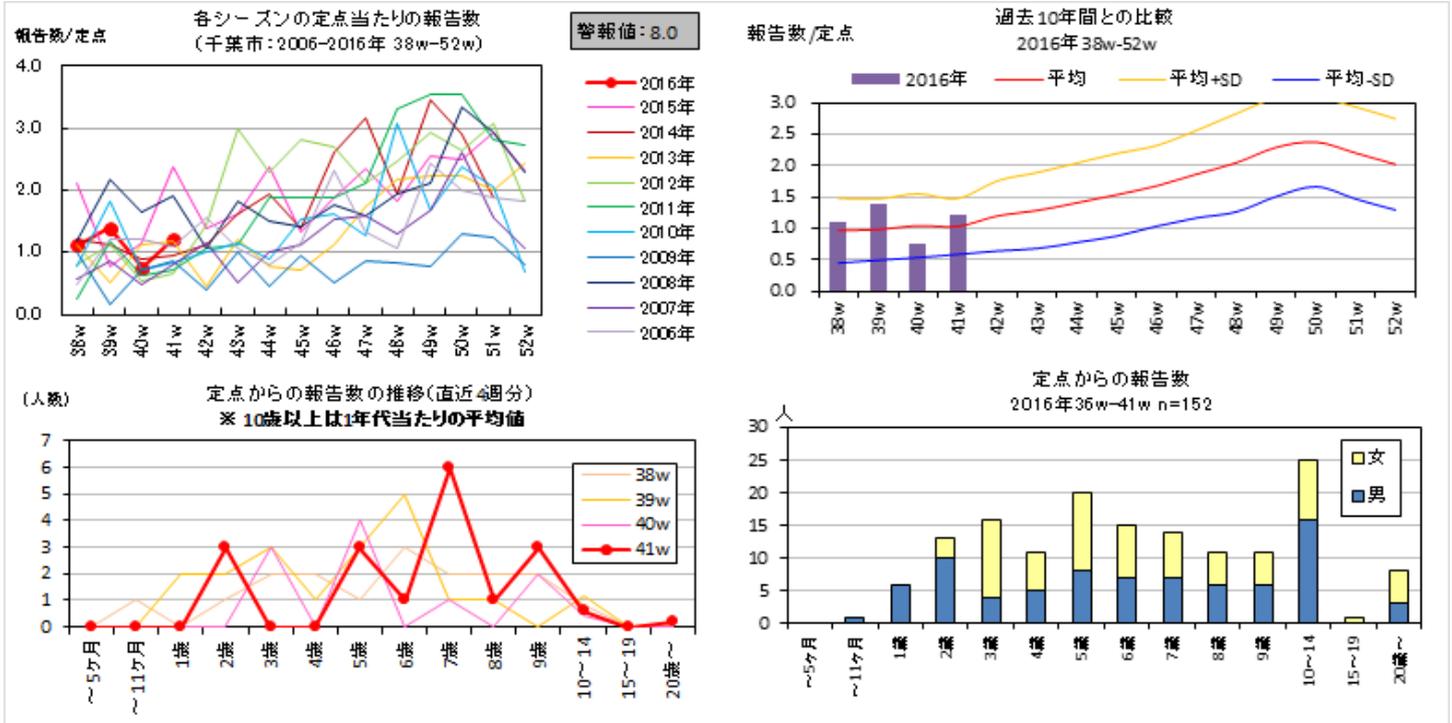
定点当たり報告数 第41週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し1.22となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第40週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、静岡県、山形県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第41週は前週より増加し1.22となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(3.0/定点)で最多となっており、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第41週までの累積報告数(n=152)によると、性別では男性が52.0%(79名)、女性が48.0%(73名)で、年齢階級別では10歳代前半(16.4%:25名)、5歳(13.2%:20名)、3歳(10.5%:15名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第40週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、大分県、熊本県、鳥根県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第41週は、前週より減少し4.17となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多となっています。例年の発生動向によると、今後は増加する傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区(9.0/定点)で最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第41週までの累積報告数(n=440)によると、性別では男性が57.3%(252名)、女性が42.7%(188名)で、年齢階級別では1歳(18.4%:81名)、4歳(12.5%:55名)、6~11か月(11.6%:51名)の順に多くなっています。

